

ハンドルを購入して最初にすべきこと。

2016年5月27日 FIVICS JAPAN 米田 基裕

1、はじめに

なぜ私がこのような文書を書くに至ったかを先に述べさせていただきたい。私がこの文を書くに至るには私の職業が関係している。私はアーチェリー業界で働いている。今までに、製造メーカー、小売店、メーカー代理店、コーチ業とアーチェリーにかかわることで生活をしてきた。そのおかげか否か、アーチェリーに対する情熱は募っていきばかりだ。

その中で多くの小売店やメーカー代理店、コーチ業の方が弓具を購入してそのまま選手に引き渡し、使用させている現状を知った。私も昔は同じことをしていた。しかし、それでは危険が伴うことを経験で覚えた。そして、その間違いを誰にも起こさせないために、この文章を書くことにした。

今回は図解を入れていくが、私が今現在 FIVICS 社の代理店をしているので、

【FIVICS GLADIUS SRV ハンドル】にて図解を行う。

2、ハンドル届いた際に行うこと

皆さんの目の前にハンドルが届いた。購入者本人でなければ、開封することにためらうことだろう。何せ高いハンドルだと 14 万円、安いものでも 1 万円を超えるものだ。販売店やメーカー代理店ではない限り、購入者の意志を確認して開封すべきだ。

①開封

開封する際は、最新の注意をすべきだ。開封時に刃物を使用する際は、ハンドル本体を傷つけないように気を付けて開封をすべきだ。

ハンドルがハンドルカバーに入っている。と思っても入っていない場合もある。

私は 7 年間で WIN&WIN, SF Archery, Cartel, Samick, Arco Sport Spigarelli などのメーカーでハンドルカバーに入っていない状態のハンドルに遭遇している。

②同封品の確認

各メーカーによって同封品は異なる。また同一メーカーでも装着済みのパーツや自身で取り付けなければならぬ商品などがある。

よくある同封品リスト

- ・取扱説明書
- ・保証事項記載書
- ・調整用レンチセット
- ・クリッカープレート
- ・その他（メーカーによってはプランジャー、レストなどが付属する場合もある。）

③外装の確認



図 1 開封状態のハンドル

図1の状態にして、到着したハンドルを外に出してみても大きな傷がないか確認しよう。なぜ大きな傷というのかを説明するが、ほとんどのメーカーが海外メーカーだ。小さな傷程度では保証や交換をしてくれるメーカーは少ない。メーカーや小売店の判断になる。気になる傷の場合は購入店へこの時点で問い合わせるべきだ。交換などの判断はそのショップ次第ということになる。あまりにも大きな傷がある場合はどのショップもきっと交換してくれることだろう。

④グリップの点検

これも私の経験の中で入荷時から割れているものを発見したことがある。私も扱ったことのあるメーカーが多いほうではないのでどうしても偏ってしまうが、割れているものを発見したメーカーは【MK KOREA、WIN&WIN、SF Archery、HOYT、FIVICS】である。この話を海外の大手代理店の友人にしたところ、【どのメーカーのグリップもたまたま割れているよ。どのメーカーも言えば交換品のグリップがすぐ来るよ。】とのことである。したがってこれはよくあることなのであろう。

グリップの確認だが、下記の図2のようにして確認を行うべきだ。



図2

なぜこのようにして確認するかというのは、今回はプラスチックグリップを使用しているので割れは簡単に確認が可能だ。しかしウッドグリップの場合だと、中の割れまでは確認できない。したがって一度ネジを外し、グリップの内部までしっかりと確認すべきである。

この際にまれであるが、ネジ山がダメになっていることがある。悲しいことだがここも確認すべき点である。

⑤ブッシングの点検

ブッシングまたはブッシュと呼ばれるパーツの確認である。これはロッドを取りつけるにあたり、ハンドルに適切に到着されているかを確認するため1点。もう1点は、ブッシングのネジ山がしっかりと作られているか確認である。確認作業は下記の図3、4、5の要領で行う。



図3



図4



図5

センターブッシング、アッパーブッシング、ローアブッシングと実際にロッドを使って確認していくのがベストだ。なぜロッドで確認するのかというのは、もしブッシングの取り付けが曲がっている場合はすぐに見つけることが可能であるからだ。もし、カウンターブッシング（バックカウンター）などがある場合はもちろん確認すべきだ。

残念ながらこのブッシングのずれや接着不良は私が取り扱ったこのあるすべてのメーカーで発生している。メーカーが必ず戦わねばならない課題である。

⑥プランジャーホールの確認

ブッシング同様にネジ加工がされている部位である。ここも図6のように確認する。



図 6

この位置もネジ山の乱れや、削りかすの付着によって動作不良を起こすことがある。また、取り付け面がまっすぐでないとプランジャーのゆるみなどにつながる。したがって確認すべきところだ。

⑦サイトマウントのネジ穴の位置の確認

これは今までに一度しか経験したことがない事例だ。メーカー側も驚いていた。WIN&WIN INNO CXT ハンドルをお客様にご注文いただいた。納品後すぐにお客様より、【サイトマウントが取り付けられない。このハンドルはどうなっているか?別の CXT ハンドルには取り付けられた。】との連絡が入った。この時は私も冷や汗をかいた。お客様に持ってきていただいたハンドルのサイトマウントは確かに微量ではあるが適正位置からずれた位置に開いていた。そのため、マウント固定ねじがマウントに干渉されて取り付けられない状態にあった。

私はこの事例依頼、すべてのメーカーのハンドルで入荷時に下記の図7の確認をしている。



図 7

このねじ穴の位置の確認と同様に下記の図8のネジが適正に装着できるかも確認すべきだ。



図 8

⑧リムアジャストメントボルト、センターアジャストメント機構の分解

これは購入後、どんなに忙しくても必ず行わなければならない。この確認をせずにハンドルの寿命を短くした選手を私は何十名も知っている。そして私自身知識なく分解を行い、ハンドルを破損させかけたこともある。必ず取扱説明書を読み理解した上で取り組んでほしい。

では、まず図9にて分解の理想的な状態を確認してもらおう。



図 9

可能であれば、すべてのネジを取り外してほしい。このハンドルは設計上センターアジャストメント機構を取り外せないようになっている。しかし、HOYT、WIN&WIN、SF Archery、FIVICS TITANX2 ハンドルなどは取り外せるようになっている。必ず取り外して確認しなければならない。

この機構はハンドルの種類によっては金属の削りかすが大量に入っていることがある。この削りかすを放置することにより、ハンドルの調整を行うたびにネジ山を削っている状態や、ハンドルを削ってく状態になる。これによって得を得ることは何もない。従って、最初に取り除くべきものである。

3、最後に

近年、指導者も個人で道具を売買する人間も増えている。それに伴い、技術や知識が追いついていないもの目立つようになった。これはショップにも言えることだろう。この文書を書いている私ですら技術や知識はまだまだ足りないと感じている。お客様から教わることも多くあるのだ。この業界にいて思うことは、すぐに他を否定すること。そのような姿勢では成長は望めない。

少なくともこのような文書を私が発表することによって、何かを変革させようとする人が、私の後に続き追い抜いていく人物が現れることを願う。

すべては未来の後輩たちのために。